

平成 26 年 6 月 3 日
長野県市長会事務局

G8サミットとは

☆国際的な首脳会議のひとつ、「主要国首脳会議」のことで、毎年1回開催を原則としている。主なテーマは、主催国の意向が反映される。

(G8:Group of Eight の略)

☆G8サミットの日本開催は、これまでに5回

- 1 1979年(昭和54年)6月 東京(テーマ:エネルギー)
- 2 1986年(昭和61年)5月 東京(テーマ:インフレなき経済成長)
- 3 1993年(平成5年)7月 東京(テーマ:経済・世界成長戦略)
- 4 2000年(平成12年)7月 沖縄県・福岡県・宮崎県(テーマ:情報)
- 5 2008年(平成20年)7月 北海道(テーマ:環境「地球温暖化」)
- 6 2016年(平成28年) (未定)

《最近の開催状況》

回	年	開催地	テーマ等
39	2013	イギリス(ロック・アーン)	主要テーマ「貿易・税・透明性」
臨	2014	オランダ(デン・ハーグ)	ロシアのクリミア編入につき緊急開催
40	2014	ベルギー(ブリュッセル)	(未定)
41	2015	ドイツ(シュロス・エルマウ)	(未定)
42	2016	日本(未定)	(未定)

☆2008 洞爺湖サミットの開催概要等(7月7日～9日)

1 サミットは、10を超える各国大臣級会合で構成

《日本国内で開催されたG8関連会合》

- (1) G20(閣僚対話) 《千葉 3月14日～16日》
- (2) 開発大臣会合 《東京 4月4日～6日》
- (3) 労働大臣会合 《新潟 5月11日～13日》
- (4) 環境大臣会合 《神戸 5月24日～26日》
- (5) アフリカ開発会議IV 《横浜 5月28日～30日》
- (6) エネルギー大臣会合 《青森 6月7日～8日》
- (7) 内務・司法大臣会合 《東京 6月11日～13日》
- (8) 財務大臣会合 《大阪 6月13日～14日》
- (9) 科学技術大臣会合 《沖縄 6月26日～27日》
- (10) 外務大臣会合 《京都 6月26日～27日》
- (11) 北海道洞爺湖サミット 《北海道 7月7日～9日》

2 サミット開催中及びその前後に、子どもサミット、首脳夫人プログラム、首脳と住民との交流会など、多くの関連事業が北海道内で開催

《北海道内で開催された主な関連事業(イベント等)》

会期前	○子ども宇宙サミット	5月	苫小牧市
	○J7あびら環境サミット	5月	安平町
	○こども環境サミット札幌	6月	札幌市
	○渡島大沼環境保全高校生サミット	7月	函館市、渡島支庁 等
会期中	○配偶者(G8首脳夫人)プログラム	7月	洞爺湖町、留寿都村
	○フランス首脳等と道民との交流会	7月	室蘭市、共和町、壮瞥町
	○ドイツ首脳等と道民との交流会	7月	千歳市
	○国連事務総長講演会	7月	札幌市・北海道大学 等
会期後	○「北海道洞爺湖サミット展」	10月～	(道内14か所)

3 サミットの全体経費は約 264 億円（うち、道内消費額は約 198 億円、経済波及効果は約 350 億円）

《サミット全体経費》

施設等建設費	10,855 百万円(41%)	国際メディアセンター建設、空港貴賓室設置等
警備費	10,502 百万円(40%)	警官 2.1 万人、消防隊員(800 人)会場周辺待機等
運営費	5,003 百万円(19%)	外交団接遇費用、イベント費用、プレス関係含む
計	26,360 百万円(100%)	(うち、道内消費額は約 198 億円で全体の約 75%)

4 北海道等が負担した道関連経費は約 23 億円

《北海道関連経費》

サミット推進費	450 百万円(20%)	機運醸成(道 161、企業等 288、国費等 1)
北海道連携事業	111 百万円(5%)	観光PR、環境整備(道 111)
警備等関連事業	1,726 百万円(75%)	消防救急関係等(道 1,273、国費等 453)
計	2,287 百万円(100%)	(道 1,545[68%]、企業等 288、国費等 454)

G8サミット開催のメリット・デメリット

☆メリット

- 1 開催地を中心に、地域の魅力を世界に向かって発信ができる。
- 2 開催にあたって、住民等による国際協調の機運を醸成できる。
- 3 国際都市としての整備に弾みがつく。
- 4 開催による経済波及効果が期待できる。 等

☆デメリット

- 1 開催期間中、通常の経済活動や市民生活に支障が生じる。
- 2 地元も機運醸成や警備などのために、応分の事業実施と経費負担が求められる。 等

2016 G8 開催に向けた具体的な動き

☆外務省が考えるスケジュール

2014 年	夏(8 月頃)	開催地に関する開催条件の発表
	秋(10 月頃)	開催立候補地の締め切り
2015 年	春(3 月頃)	開催地の決定(前回は 4 月)

☆県外の立候補地(予想)

宮城県(仙台市)、神奈川県(横浜市)、静岡県(静岡市、浜松市)、京都府(京都市)
大阪府(大阪市)、兵庫県(神戸市)、広島県(広島市)、福岡県(福岡市) 等

☆県内の動き

- 1 軽井沢町：町議会、佐久広域連合議会において誘致を決議
- 2 県町村会：軽井沢町支援を決定
- 3 経済団体：県経営者協会が 26 年度事業計画に県内開催支援を明記、他の経済団体も同調予定
- 4 軽井沢町長が菅谷会長を訪問し、市長会としての軽井沢誘致を要請
- 5 軽井沢町、佐久広域連合及び県経営者協会が知事に対し、誘致を要請

長野県市長会としての当面の取組方針(案)

長野県内で G8 サミットが開催されることは、子どもサミットなど多くの関連事業も開催されることとなり、県内各市への波及効果が期待できることから、経済団体等と協同して県内誘致を長野県知事に要請してまいりたい。

【G8サミットの開催地を目指す】 長野県・軽井沢サミットの実現に向けて

佐久広域連合議会は、平成26年3月25日、議員提案の「長野県・軽井沢サミットの誘致を全面的に支援する決議案」を全会一致で可決しました。

サミット開催による効果

軽

軽井沢町での主要国首脳会議（サミット）開催は、知名度の上や国際化の推進、会議需要の増大など、多くの経済効果をもたらすことが予想されますが、その効果が軽井沢町だけに留まらず、佐久地域ひいては長野県全体に波及することが期待されます。

1 地名が世界的に有名になることによる相乗効果

佐久地域にある「軽井沢」の地名が世界的に有名になることによる相乗効果

2 各国関係者やメディア等の滞在に伴う直接的な経済効果

各国関係者やメディア等の滞在に伴う直接的な経済効果

向けて下駄する絶好の機会になります。

G8SUMMIT 2016

長野県・軽井沢サミット 実現に向けたこれまでの経緯

- 平成20年(2008)2月 ○軽井沢観光協会呼びかけで軽井沢サミット誘致準備会が発足。
- 軽井沢町議会に「軽井沢サミット誘致に関する陳情」が提出され、全会一致で採択される。
- 平成26年(2014)2月 ○軽井沢町がサミット誘致を方針決定。
- 平成26年(2014)3月 ○佐久広域連合議会在「長野県・軽井沢サミットの誘致を全面的に支援する決議案」を全会一致で可決。



平成26年第1回議定例会
決意表明する藤巻副広域連合長
(軽井沢町長)

長野県・軽井沢サミットの誘致を全面的に支援する決議

主要国首脳会議は、環境問題を含め、世界で直面する様々な課題を克服するため、加盟する8カ国が交代で議長国となり開催される予定です。

2016年(平成28年) G8サミット開催までの流れ



34回目のサミットが開催された北海道洞爺湖

●平成28年に日本でサミット開催

主要国首脳会議(G8サミット)は、日、米、英、仏、独、伊、加、露8カ国の首脳および欧州委員会の委員長が参加して毎年開催される首脳会議。加盟する8カ国が持ち回りで議長国になり、環境問題をはじめ、世界で直面する様々な課題が議論される。

日本国内における開催は、過去に東京で始まり、平成12年には九州・沖縄で、平成20年には北海道・洞爺湖で開催され、大都市から地方での開催へ移行している。

次の国内開催は、平成28年の予定で、今年の6月頃には首相がサミットのテーマを発表し、各都道府県に開催希望地を募る。その後、開催の1年前くらいには開催場所が正式に決定する。

軽井沢 歴史



（過去・いま・未来）

明治 21年(1888) カナダ人宣教師A.C.シヨールが大塚山に別荘を建てる(別荘の第1号)



堀長雄が昭和16年に購入した別荘「1412番」

保健休業地軽井沢の歴史は、明治19年、外国人宣教師A.C.シヨールが国内外に軽井沢を紹介したことに始まります。それ以降、政財界人等の別荘が建ち、明治中期には万平ホテルなどの西洋ホテルが開業します。

大正 27年(1894) 亀屋旅館を欧米風の外国人客専用ホテルに改造し、万平ホテルと改名

昭和 33年(1958) 当時の皇太子殿下と正田美智子様がテニスコートで出会う



平成 39年(1996) 第18回オリンピック東京大会総合馬術競技大会開催

平成 40年(1998) 第18回長野冬季オリンピックカーリング競技を風越公園アリーナで開催

平成 28年(2016) サミット開催(議長国日本)



在では年間780万人が訪れる避暑地として全国に知られています。

■戦時中も多くの駐日外交官と一般外国人が疎開し、各国の大使館や赤十字国際委員会が設置されました。1つの別荘(深山荘)にはスイス公使館が設置され、道庁を挟んだ場所にあった旧三笠ホテルに外務省軽井沢事務所が置かれたため、旧三笠ホテルは終戦交渉の舞台にもなりました。

■皇室の御静養地として親しまれ、夏冬の2度のオリンピック競技会場にもなっている軽井沢町は、開発等の規制をすることで良好な景観を維持し、現在では年間780万人が訪れる避暑地として全国に知られています。